

# 平成 30 年度 地域ケアプラザ事業報告書

## ■ 施設名

ニツ橋第二地域ケアプラザ

## ■ 事業報告

### 1 全事業共通

#### 地域の現状と課題について

ニツ橋第二地域ケアプラザ（以下、ケアプラザという）の担当エリア内の高齢化の状況は、第四地区 28.4%・相沢地区 26.3%で、（瀬谷区全体は 27.2%）両地区とも高齢化が進んでいる状況です。

また、両地区（瀬谷第四地区は一部ニツ橋地域ケアプラザと重複）の要介護認定率については、ここ数年で要支援の方と要介護 1・2の方が増加している状況です。

このような状況で、地域福祉保健計画に基づき、両地区では地区計画で、見守りやサロン活動などの地域福祉活動を活発に展開し、当ケアプラザとしても地区や各自治会町内会単位での地域福祉活動支援を中心に進めて来ました。

瀬谷第四地区では、地域福祉活動の人材育成の「よんたくん倶楽部」、子ども支援の活動である「よんたくん広場」の実施への支援を進めました。

相沢地区では、出張による講座などの諸事業や「相沢助けあいの会」を軌道に乗せ、さらには地区内に地域活動の拠点が少ないと言う課題を解決するため、新たな拠点づくりを進めました。

また、両地区とも高齢化率が高い状況で、地域活動に活発に取り組んでいる反面、地域活動の担い手の人材不足が通年の課題となっています。

このような中、平成 30 年度はケアプラザとして、地域の中で福祉の課題を抱えた方が住み暮らしやすい環境をつくるため、生活支援体制整備事業を中心に、各部門の密接な連携のうえ、個別のニーズ把握や認知症等の課題を抱えた方や家族が集える場所づくり、見守り活動の必要性の促進や介護予防のための諸事業などを進めました。

#### 【主な取り組み】

- (1) 連合自治会、民児協、地区社協との連携を進め、地域住民や専門機関・団体に事業の周知を行い、理解促進と多様な主体との連携強化を図りました。  
また、単位町内会でのニーズ把握・社会資源の把握・アセスメントを進め、日常生活課題への解決方法を地域住民・団体とともに協議し生活支援体制整備事業を進めました。
- (2) 個別課題解決のために、瀬谷第四地区「女性のボランティア」や「相沢助けあいの会」の育成・支援を進め、地域活動を行っているグループ・地域活動を希望する方々の人材育成、子ども支援事業の推進のための支援などを進めました。
- (3) 地域の単位町内会などとの協働で、出前講座や健康講座などを実施し、介護予防事業を広めました。
- (4) 相談者の立場に立った総合的な相談対応・サービス提供を行い、介護予防の促進のため、地域の高齢者の方々が目標を持った生活ができるよう意思確認を行いながら、社会資源の紹介や介護予防の普及強化へつなげました。
- (5) 介護保険利用者が可能な限り居宅で、状況に応じ自立した生活を営めるよう支援をすすめました。

### (1) 相談（高齢者・子ども・障害者分野等の情報提供）

- 日頃から区役所や関係機関と情報共有し連携することにより、相談内容に応じた速い対応を進めました。  
また、包括以外の職員も活用できる軽易な相談受付様式により、軽微な相談内容も記入することを習慣付け、確実に担当者に繋がるように漏れのない速やかな相談体制を整えました。
- 月例のケア会議で区役所・ケアプラザ・区社協間で地域・個別支援についての情報を共有し連携を図り、地域性・個別性に沿った対応を行いました。
- 相談内容によっては、区社協だけでなく、せやまるふれあい館内の各施設と連携し、施設の専門性を活かした支援につなげ、取分け今年度は、生活支援センターと密接に個別支援で連携を深めました。
- 隣接する県立三ツ境養護学校、市立二つ橋高等特別支援学校、横浜市西部多機能型拠点「こまち」の障がい児者の状況や就労状況などを把握するとともに、学校・当事者に地域情報の発信を行いました。
- オープンスペースやエントランスなどに、新しい地域情報や介護保険情報の冊子やチラシを取り出しやすいラックに配架し、来館者に情報提供しました。
- 介護予防支援事業や居宅介護支援事業など、利用者宅への訪問の際、家庭内状況や民生委員等の地域から寄せられる情報などから、区役所や関係機関へつなぎ連携することで、支援を進めました。

### (2) 各事業の連携

- 月例ケア会議のほか、今年度より5職種会議を行うことで、地域・個別課題の把握を行うとともに、各事業の幅を広げられるよう検討を行いました。
- 各種サロンや老人会における出前講座も定着してきており、「介護予防」に限らず「介護保険制度」「振り込め詐欺」「認知症予防」など、幅広い内容で啓発を行いました。
- 多職種で地域のサロン等の活動に関わり、「フォローアップ講座」等で現状や要望に応じた支援を行いました。
- 「みーとすまいる」は今年度2回（7月・3月）実施。事業開始当初の状況に比べ、重症心身障がい児への支援サービスが増えてきていることや、リピーターの参加者が卒業することもあり、今後の方向性を検討する時期になっています。
- 「結果にコミット！カラダづくりのコツ！！」を3回連続講座で実施しました。地域住民や区内在勤者を含む計12名の参加がありました。各回に運動プログラムを取り入れ、医師と管理栄養士から運動の効果や食事について講義を行い、参加者からは運動の効果を実感したとの感想もありました。（今後はより若い世代の参加や開催頻度などについて、検討し進めます。）

### (3) 職員体制・育成、公正・中立性の確保

- 市社協本部の「人材育成計画」をもとに、「求められる職員像」の自己評価を進め、「基幹研修」や「人権研修」「苦情解決研修」等の出席者からの報告書の提出や職場内での伝達研修を行いました。
- 全常勤職員が、市社協全体の方針に基づいた個別目標を年度毎に設定し、業務を行い、年度初め・中間期・期末期に自己評価や上司からの評価・指導により人事考課を実施しました。
- 職員全体会議で全職員対象に、改めて地域ケアプラザについての再認識をするための研修や福祉避難所・災害時の避難体制の見直し・AED訓練・感染症等の研修を行いました。
- 生活支援体制整備事業の推進を、「生活支援体制整備事業の手引き」（健康福祉局）、「生活支援体制整備事業への本会の考え方」（法人）に基づき進めました。

- 職員の育成について、法人等作成の「地域ケアプラザ基本指針」、「地域ケアプラザ業務連携指針」、「地域ケアプラザ自己評価シート」、「地域ケアプラザが取り組む地域支援」（地域活動交流 C0・生活支援 C0 編）により、定期的に各々の業務能力を振り返り、確認しながら業務に取り組みました。
- ケアマネットや各種専門職の連絡会を通し、区内サービス事業所の情報を収集し、ケアプラザ内で共有するとともに法人本部の公正中立を保つための方針に従い偏りを防ぎました。
- 月例の所内ケアマネミーティングや毎週の簡易ミーティングにより、特定の事業所に偏らないように確認し、課題のあるケースへの対応等について検討しました。
- 第三者評価を受審し、振り返りを全職員で行うと共に、利用者アンケートの意見を振り返りに結び付け、より利用者の利便性を重視した細かな改善やより適切なサービスの向上に反映させました。
- 法人のコンプライアンスハンドブックを全職員が携帯し、内容確認を行い法令や内部規定の遵守を意識し公正中立な立場で業務にあたりました。

#### (4) 地域福祉保健のネットワーク構築

- 毎月の地区の連合自治会、民児協、地区社協の定例会に参加し、情報収集やケアプラザからの情報提供を行いました。また単位町内会について会合やイベントなどへの参加、ヒアリングを通してキーマンとの関係構築とアセスメントを深めることができました。そしてそれらで得た情報について区行政との地区支援チーム会議や区保健師ケースワーカーとのケアカンファレンスで共有しました。
- エリア内のボランティアを対象とした交流会（ぼらんていあカフェ）を開催。介護予防のスキルアップ講座を抱き合わせにしたことから相沢地区からの参加が増加し、昨年度より異なる地域同士の交流を深めることができました。
- 基幹相談支援センターと連携し、瀬谷第四地区女性のボランティアで障害理解講座を開催。ボランティアが相談機関として基幹相談支援センターを知るきっかけとなりました。
- 女性のボランティアの運営支援として議事録作成や定例会開催支援などを行いました。また、研修では「インフォーマルサービスと専門職の連携」、「障害理解」をテーマに扱い、高齢分野だけでなく多方面での専門職との連携を進める機会となりました。
- インフォーマルサービスと専門職の連携強化のため、インフォーマルサービスとケアマネジャーの連携強化のための事例検討会及び活動紹介を行いました。
- ケアマネジャーと民生委員児童委員の交流会を開催し、事例検討を通し個別支援についての共通認識を高めました。
- 「ほっこりカフェ」では小規模多機能施設の「咲くや愛成」と共催で同法人の愛成苑で定期的な開催に至りました。社会福祉法人が義務付けられている「地域における公益的活動」への支援を行い、施設と地域がつながるきっかけ作りをしました。
- せやまるふれあい館管理委員会にて、同館にある事業所との連携を図り、現状の課題や進捗状況の確認を行いました。

## 2 地域活動交流事業

### (1) 自主企画事業

- 「音の駅」は区内ケアプラザがそれぞれ単独で、より地域の身近な場所で開催することができました。またスタンプラリーを取り入れ、他の地域の様子を知る機会に繋がりました。
- 障害児余暇支援事業「みーとすまいる」は今年度2回（7月・3月）実施しました。当事業開始時に比べ、重症心身障害児への支援サービスが増えてきていることや、リピーターの参加者が卒業することもあり、今後の方向性を検討する必要があります。担当地区の障害理解啓発については、当事者グループや事業所の協力を得て理解啓発の機会を設けました。
- 健康講座「結果にコミット！カラダづくりのコツ！！」を3回連続講座で実施しました。地域住民や区内在勤者を含む計12名の参加で、各回に運動プログラムを取り入れ、医師と管理栄養士から運動の効果や食事について講義を行い、参加者から運動の効果を実感したとの感想もありました。今後はより若い世代の参加や開催頻度などを、検討していきます。
- 区内地域活動交流C0と協働し、新しくボランティアを始める方を対象に、「ボランティアデビュー講座」を2月・3月に実施しました。よこはまシニアボランティアポイントの登録研修会を行うとともに、区ボランティアセンターや地域子育て支援拠点からもボランティア情報提供を行いました。実際の活動について個別に相談対応したことで、実際の活動参加へつながりました。今後も情報発信や相談の機会を設けていきます。
- 地域子育て支援拠点と区内薬局の管理栄養士と協力し、「離乳食教室」を実施しました。今後は他ケアプラザや地域の親子の広場等での開催であったり、多世代交流も取り入れた内容で行えるよう検討していきます。

### (2) 福祉保健活動団体等が活動する場の提供

- 地域の自治会や地区社協を始め様々な団体の活動拠点としてご利用いただき、障害者団体や子育てサークルの利用も増えています。
- 「せやまるギャラリー」の利用も定着してきていますが、新規の利用につながるよう広報の強化が必要です。
- 各室空き状況掲示板を継続すると共に、懇談会にて予約早見表を配布しました。「わかりやすい」といった好評の声につながりました。
- 閲覧台帳の更新を行いました。懇談会では利用方法をわかりやすくするとともに、他の団体との交流の時間を設け、活動の幅を広げるきっかけとしました。
- 「せやまる・ふれあい祭り」では、団体の特徴を活かしたブースを設置したほか、運営補助のボランティアを募り、関係構築や円滑な運営につながりました。

### (3) ボランティアの育成及びコーディネート

- 区内地域活動交流C0と協働し、新しくボランティアを始める方を対象に、「ボランティアデビュー講座」を2月・3月に実施しました。よこはまシニアボランティアポイントの登録研修会を行うとともに、区ボランティアセンターや地域子育て支援拠点からもボランティア情報提供を行いました。実際の活動について個別に相談対応したことで、実際の活動参加へつながりました。今後も情報発信や相談の機会を設けていきます。（再掲）
- ボランティアの協力を得ながら「体力測定」などの介護予防事業を実施しました。また地域のサロン等で得た情報や要望を事業に反映できるように心がけました。
- 地区支援チームで役割分担をしながら、人材育成の取り組みについて支援を行いました。今後は、既存の活動の幅を広げることができるよう、担い手と新たな人材が連携できる体制を整えることができるよう支援します。

- 瀬谷第四地区について「女性のボランティア」では、単位自治会への活動紹介・募集を行いました。また障害児者支援の機会もあるため、障害支援機関による研修を行い、活動の視野を広げることができました。子ども支援「よんたくん広場」は隔月の開催（年5回）、人材育成「よんたくん倶楽部」ではメンバーが主体的な活動ができるよう後方支援を行いました。「よんたくん広場」では若い世代の担い手を中心となって進めることができました。今後は倶楽部のメンバーも積極的に関わることができるよう、横のつながりの強化を目指します。
- 相沢地区の「助けあいの会」については協議体として、具体的な活動を始めるための体制づくりについて検討を行い試行的に活動を実施しました。

#### (4) 福祉保健活動等に関する情報収集及び情報提供

- 地区担当職員を中心に関わることで、よりスムーズな対応につながりました。地域課題などの情報は5職種会議等の場で共有を行いました。
- 出前講座のアンケートを通じて、地域の中の個別課題の抽出に取り組みました。
- 職員会議のほか、今年度より5職種会議を行うことで、地域・個別課題の把握・検討を行いました。またニッ橋地域ケアプラザと区社協と適宜情報共有を行いました。
- アセスメントシートの適宜更新だけでなく、出前講座等の報告を共有することで、より具体的に状況を把握することができるように努めました。
- 広報誌は隔月（年6回）発行しました。主な読者である地域住民が目を引くような、地域のお役立ち情報を掲載できるように心がけました。
- ニッ橋地域ケアプラザと区社協と適宜情報共有を行いました。また地域支援計画を区社協と共に作成・見直しを行いました。
- 地区支援チームやコーディネーターの会議を活用し、他地区の事例が「歌って笑ってショータイム」等の新規事業につながりました。
- 第四地区社協が行っている、徘徊高齢者見守り・発見事業「よんたくん徘徊ネットワーク」に29年度より支援を続けており、今年度は横浜市社協主催の地区社協全体会での事例発表に繋がるに至りました。

### 3 生活支援体制整備事業

#### (1) 事業実施体制

- 職員全体に対し人口統計データの回覧、常勤職員全員に対しアセスメントシートの更新を回覧・共有し、また拠点地図の更新を行い所内全体が生活支援体制整備事業への関心と理解を深め連携強化の基盤としました。  
また、包括支援センターと同行して個別課題の把握を行い、そこで得た課題を相沢地区社協内で共有し、「助け合いの会」を検討する基となりました。なお、助け合いの会の協議体としての検討会で、包括職員も同席し個別課題の生の声を伝えました。
- 総合相談票システムを活用し、町別での生活課題を抽出できるようになり、各職員が事業へ反映できるようにしました。
- セブンイレブンと連携してエリア内を移動販売できるサービスの開発の支援を区社協・中屋敷CPと共に行いました。現在は駐車できる場所を地域のキーマンなどと調整を行っています。
- 法人内連絡会で市ボランティアセンターと共催して企業と法人内の2層コーディネーターとの交流会を開催し、地域支援に関心のある企業とのつながったことや、企業へのアプローチ（プレゼン）の方法などを学ぶ機会としました。
- 区連絡会と生活支援体制整備事業をPRする新たな媒体としてFacebookを開設し、新たなターゲットへの情報発信ができるツールとなりました。
- 相沢地区にある旧ヤクルトセンター開発では、周辺町内会の若い世代の活動の場づくりを視野に入れて検討を進めました。

## (2) 地域アセスメント（ニーズ・資源の把握・分析）

- サロンやシニアクラブ、自治会行事などに参加し、利用者や各会の会長、民生委員にヒアリングを行い、地域活動と生活課題の把握を行いました。また地域包括支援センターの職員と共に総合相談に同行し、個別課題の把握に努めました。
- 地区別単位町内会別のアセスメントシートは随時更新を行っています。
- 区生活支援コーディネーター連絡会で昨年実施したアンケート調査結果について連絡会内で分析を行い事業に反映するための基としました。
- 総合相談システムを活用して町別に生活課題を抽出ができるようになりました。「相沢助け合いの会」立ち上げに向けた検討会などで活用しました。

## (3) 連携・協議の場

- あんしんカードの普及を皮切りに単位町内会が見守りの取組みの発展、見直しが行われています。地域ケア会議等を通し、各町内の同行を確認しつつケアプラザとしての見守り協力を地域に向け提案しています。
- 第四地区女性のボランティアの事務局として定例会の開催支援や議事録の作成、研修の企画を行いました。研修ではインフォーマルサービスと専門職の連携をテーマに行い、ケアマネジャーの業務について理解する機会となりました。
- ケアマネジャーとインフォーマルサービスの担い手との交流としてケアマネスキルアップ研修で事例検討会及び活動紹介を行い、個別支援におけるそれぞれの役割・仕事内容を理解する機会をつくりました。
- 「ほっこりカフェ」は今年度から定期開催となりました。その傍ら、ボランティアとの自主化への打合せを行い、来年度からケアプラザと小規模多機能「咲くや愛成」と共催しながら自主運営をすることとなりました。
- エリア内のボランティアを対象とした連続講座として「ぼらんていあカフェ」を開催しました。今年度はリスクマネジメント、コミュニケーション（ホスピタリティ）、専門職連携、介護予防のスキル習得をテーマに構成しました。各回例年よりも参加人数が多く、最終日の介護予防のスキル習得（交流会含む）では、例年参加の少なかった相沢地区の参加が多く、担当両地区で幅広い交流が行うことができました。
- 「相沢助け合いの会」について定期的に検討する場を地区社協と協力して設け、活動が軌道に乗るように話し合いを進めています。
- 活動拠点の少ない相沢地区において新たな活動拠点として「旧ヤクルトセンターの開発」を検討しています。拠点周辺の地域団体に対し地域活動に関するアンケート調査と拠点の運営ボランティアの募集を行いました。応募のあったボランティアと共に地域課題と拠点の必要性を共有し、開発に向けた話し合いを進めています。

## (4) より広域の地域課題の解決に向けた取組

- 区生活支援コーディネーター連絡会で昨年実施したアンケート調査結果について連絡会内で分析を行いました。
- 区社協ボランティアセンターが発行するボラだよりに「せやをまるっと生活支援」の記事の定期的な掲載・Facebook ページの立ち上げなど事業周知を様々な媒体で広報しました。また、法人内2層コーディネーターが開設したブログにおいても同様に、広く市全体に広報を行いました。
- ケアマネジャーとインフォーマルサービスの担い手との交流として事例検討会及び活動紹介を行い、個別支援におけるそれぞれの役割・仕事内容を理解する機会をつくりました。
- 「ほっこりカフェ」の取組みを横浜市地域福祉フォーラムにおいて事例発表を行いました。広く市内の社会福祉法人施設に対して、「地域における公益的な活動」の方法について周知啓発する機会となりました。

## 4 地域包括支援センター運営事業

### (1) 総合相談支援業務

#### ① 地域におけるネットワークの構築

- 地区民児協、地区社協、自治会等地域での会議に出席し、包括の役割を周知するとともに地域情報・地域課題の把握に努めました。
- 地区民生委員を中心に、必要に応じ、要援護高齢者に関する情報共有を行いました。
- 区役所・区社協と月例会議を開催し、個別事例から掲げられる地域課題を共有する機会とするとともに、ネットワーク構築に向けた検討を行いました。
- 地域の事業に積極的に参加し、出張相談や出前講座を開催しました。
- 「ケアマネジャーと病院の医療ソーシャルワーカーとの連絡会」をケアマネットと共済で開催し、医療・介護の連携を強固にし、地域包括ケアシステムの推進を図りました。
- 「ケアマネジャーと民生委員の交流会」を開催し、介護予防支援計画を一緒に作成しました。
- あんしんカードなどの見守りツールの上手な活用方法を区の方針に則し、「地域の見守りツールの活用について語ろう」開催し、自治連合・民生委員児童委員・地区社協各会長と専門職とで検討する場を設けました。

#### ② 実態把握

- 総合相談業務における個別相談を通じて、地域の傾向や実態把握に取り組みました。
- 地域の会議やサロン、シニアクラブなどの地域活動に積極的に参加し、アンケートの実施や聞き取りを行い、地域課題や地域ニーズ把握を行いました。
- 総合相談や個別訪問の中から、日常生活課題を抽出できるようにし、地域住民が抱える共通課題を把握し、より地域ニーズに基づいた支援を行いました。
- 社会資源情報を整理・分析し、月例のケア会議内で区役所・区社協と共有の機会を持ちました。
- 地域事業に参加した際、地域支援記録を活用し、職員間で課題共有しました。

#### ③ 総合相談支援

- 常に専門職が相談対応できるよう、窓口当番を設け相談体制を強化しています。また、事業等で包括職員が不在の場合でも、他の職員が相談対応でき、包括職員に的確に繋げるようマニュアルや簡易な受付表を活用する等の体制を整えています。
- 地域包括支援センターを含めたケアプラザの役割を広く認知してもらうために、地域の会議や行事・活動に積極的に出向き、顔の見える関係をつくり、ネットワークの構築を行いました。
- 定例の区・区社協・ケアプラザの会議において、個別支援の情報を共有するとともに、地域性・個別性に沿った対応を行いました。
- 館内の区社協・生活支援センターなど他施設と連携し、各施設の特色を活かしたより専門性の高い支援につなげました。また、オープンスペースやエントランスなどに、地域情報や介護保険情報の冊子やチラシを配架し、来館者に情報提供しました。
- 相談内容が精神障害関係の内容が増えてきた事より、2階の生活支援センターとの協働で取り組む機会が多くなり、より一層連携の体制が深まりました。

## (2) 権利擁護業務

### ① 成年後見制度の活用促進・消費者被害の防止

- 成年後見サポートネットワーク連絡会に参加し事例検討を通し、適切な支援方法について多職種で検討し支援に活かしました。
- 必要に応じ、ケアマネジャーや家族に対し専門職団体についての情報提供を行いました。
- 総合相談やケアマネジャー等の担当するケースの中で、あんしんセンターの権利擁護事業の支援が必要なものがある場合、区社協につなげるなどの連携した支援を行いました。あんしんセンターの契約ケースにおいても、必要に応じ、同行訪問にて対応しました。
- 区社協と共催で「瀬谷区版エンディングノートの書き方講座」を皮切りとした連続講座を2回開催しました。その中で今後の金銭管理を中心としたライフプランニングや成年後見制度等について考えるきっかけを提供しました。
- ケアプラザエリア内外で発生した振り込め詐欺等の情報について民児協やサロン・食事会などで周知し、注意喚起を促しました。消費生活センターの「見守り新鮮情報」などを常に館内掲示し、注意喚起を促しました。またケアプラザで発行している広報誌内でも区内の消費者被害件数・対応方法を掲載し広く地域に向け、情報提供を行いました。

### ② 高齢者虐待への対応

- 連合自治会・民児協・地区社協の定例会、地域団体の活動やケアプラザの自主事業などを情報が得られる場として捉え、職員が交代で出席し活用しています。虐待が疑われるケースについては訪問し、状況確認を行い、区役所やケアマネジャー等の関係者と連携・役割分担を行い継続的にフォローしました。
- 月例のケア会議や社会福祉士分科会にて虐待が疑われるケースについて共有し、区役所や同職種間で意見交換を行い、実務での支援方法として役立てています。
- 区役所主催の福祉事業所向け虐待防止研修に協力し、得た知識をケアプラザとしての支援方法として役立てています。また、定例で介護者のつどい「ふれあい」を開催し、元気に介護が続けられるよう心身のリフレッシュ、孤立しない仲間作り、介護に役立つ情報提供の場となるようプログラムを実施しました。次年度以降はより参加者の知りたい情報を伝えられる場としての開催を心掛け、他の家族会とも連携をしていけるよう取り組みます。

### ③ 認知症

- エリア内の小学校（相沢・瀬谷・二つ橋）3校で認知症サポーター養成講座を実施し、子どもたちが認知症を正しく理解し身近な高齢者を思いやる気持ちを育む機会となりました。講座実施に向けては、キャラバンメイト主体で学校側との調整を図り、ケアプラザ・区役所は後方支援を行っています。その他、高齢者のサロン等でも認知症サポーター養成講座を実施しました。また2か月に一度包括エリア内でのキャラバンメイト連絡会を実施し、講座開催に向けての情報共有・役割分担・スキルアップを行いました。
- 認知症の方を支える家族支援として、介護者同士の交流や介護に役立つ知識を学ぶ機会として、介護者のつどい「ふれあい」を定期開催しました。薬剤師からの話や、介護者に無理のない料理作りというプログラムを行うことでリフレッシュの場を提供しました。
- 区認知症徘徊ネットワークの協力機関として、不明になった高齢者の発見への協力はもとより地域等への普及啓発に取り組みました。
- 認知症医療連携検討会に参加し、行政・医療・福祉が連携を図りました。また区内医療機関へのヒアリングを実施しケアプラザについての周知と、認知症が疑われる患者への対応状況について共有しました。



- 介護予防部門と共催し、前半に協力医による認知症講話、後半に管理栄養士による栄養講座を開催しました。医師からの話により地域住民が認知症を身近な問題としてとらえ、正しく理解する機会となりました。
- 生活支援COと連携してコミュニティカフェ「ほっこりカフェ」の定期開催を行いました。ボランティアのスキルアップ講座や運営方法について協議する場を設け、ボランティアが自主的に運営に携わる体制の整備を行いました。
- 地域ケア会議をきっかけに、瀬谷警察署・瀬谷郵便局にて、認知症講座を実施しました。

### (3) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

#### ①地域住民、関係機関等との連携推進支援

- 3地区の民児協の会議に、5職種が輪番で参加し、ニーズ把握や困難ケースの把握に努め、日常活動での困り事なども相談を受けるようにしています。  
昨年度に続き、「ケアマネジャーと民生委員との交流会」を実施し、介護予防ケアプランの作成を一緒に行いました。
- エリア内のグループホームや小規模多機能居宅介護の運営推進会議に、担当を決め、出席し、施設職員、自治会長、民生委員などと地域づくりや施設運営に関する意見交換をしました。
- 35歳～65歳を対象とした、健康講座を実施し、運動の必要性・アンチエイジングなどの意識啓発を行いました。
- 昨年度にインフォーマルサービス団体とケアマネジャーの交流会を開催し、地域のインフォーマル活動の紹介の機会と事例検討を行いました。インフォーマルサービスとケアマネジャーとの交流会を開催し、地域のインフォーマルサービスの紹介とともに介護予防に関する意見交換を行いました。
- 瀬谷区在宅医療相談室・ケアマネット・区内包括支援センター共催で、「認知症ケアを考える」をテーマとした映画上映会とパネルディスカッションの運営に携わり、認知症に関する理解・啓発を図りました。
- 単位自治会の講座や婦人会で、「介護保険講座」を開催し、介護保険制度の正しい理解や介護予防の重要性について講話をしました。

#### ②医療・介護の連携推進支援

- 区役所主催の「在宅高齢者サポートネットワーク」に参加し、ケアマネジャー・医療・介護関係者や地域の福祉保健関係者と地域の見守りについて検討しました。
- ケアマネジャーと病院ソーシャルワーカーとの顔の見える関係づくりを目的に、ケアマネットと共催で、「病院相談員とケアマネジャーの交流会」を開催し、よりよい医療連携についての意見交換をグループワークで行いました。(再掲)
- 紙おむつの事業所や理学療法士を招いて、尿漏れ講座を実施しました。各種講座に施設協力医・薬剤師・管理栄養士による講座を織り交ぜながら開催しました。
- 区5包括共催で、通所介護事業所職員とケアマネジャーとの交流会を実施し、「双方が知りたい情報」「上手なサービス担当者会議」をテーマに意見交換を行いました。その際、通所介護事業所の情報シートを作成しました。
- 瀬谷区医師会にて開催されている事例検討会に参加し、医療・介護の連携における包括の役割について話をしました。
- 訪問介護看護事業所の運営推進会議に参加し、定期巡回・随時対応型訪問介護看護のサービス評価表の外部評価を行いました。

### ③ ケアマネジャー支援

- 面接・電話などでのケアマネジャーからの処遇困難ケースに対応しました。自宅への同行訪問や病院でのカンファレンスに同席し、包括における役割の確認やケース対応に関する助言を行いました。区との定例カンファレンスにおいても、情報共有を行い、課題解決に向けた検討を行いました。
- 処遇困難ケースにおいては、必要に応じて、カンファレンスの開催を提案し、実施・参加を行いました。
- 区内5包括と区役所で作成の「ケアマネカレンダー」や「主任ケアマネ通信」を発行し、事業開催通知や情報提供を行いました。
- 区内5包括と区役所と協力し、新任就労予定ケアマネジャー研修を実施し、行政サービスや区社協業務を周知したり、困り事などの課題解決の場を作りました。
- ケアマネジャースキルアップ講座を随時開催し、生活支援課業務「生活保護制度と生活困窮者自立支援制度」、「民間配食サービス試食会」、「福祉機器展」を実施しました。また、区社協事業について、〇×クイズを用いて、事業の紹介などを行いました。
- 中堅ケアマネジャーや居宅支援事業所のケアマネジャーを対象にインシデントプロセス方式による事例研究を行いました。
- ケアマネットに5包括職員が輪番で参加し、主催事業に対する助言や協力をしました。

### (4) 多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築・地域ケア会議

#### 多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築・地域ケア会議

- 民生委員が把握している困難ケースにおける情報交換を行い、随時、同行訪問などの対応をしました。民児協にも参加することで、地域課題の把握に努めるとともに、抱えている課題について意見交換を行いました。
- 個別レベル地域ケア会議において、「認知症高齢者徘徊ネットワーク」登録者を事例とし、包括圏域2地区で、地域での見守りについて開催しました。  
包括レベル地域ケア会議は、「地域での見守りについて考えよう」をテーマに、瀬谷第四地区各自治会会長、民生委員と消防・警察・郵便などの公共機関、専門職を交え、検討の場とします。相沢地区においては、生活支援ボランティアグループである「助け合いの会」の活動の活性化に向けて、ケアマネジャーを交えての会議を開催しました。
- 民生委員児童委員とケアマネジャー交流会を開催し介護予防支援の視点でプラン作成に取り組みました。“インフォーマル団体との交流会”も実施しました。
- 瀬谷第四地区、相沢地区の民児協・連合・社協会長と行政職員・区社協職員（地区担当）とケアプラザ職員とで、見守りツールの上手な活用について検討しました。
- 相沢地区の助け合いの会の再構築に向けた検討会に連携し参加、ニーズの紹介や会の立ち上げに関するアドバイスをしました。助け合いの会のボランティアとケアマネジャーを交え、生活支援ボランティアの必要性について検討する「包括レベル地域ケア会議」を開催しました。
- 横浜市老人クラブ連合会の若手リーダー研修の講師として、「地域包括ケアシステムと老人クラブ」についてクイズを交えながら講義を行いました。
- 認知症カフェに包括職員として参加し、ボランティアの方へのアドバイスや認知症の方への活動の場として、相談時に紹介をしました。特に、若年性認知症者の支援の視点を持ち、活動の場として提供しました。

(5) 介護予防ケアマネジメント（指定介護予防支援事業・第1号介護予防支援事業）

介護予防ケアマネジメント（指定介護予防支援事業・第1号介護予防支援事業）

- 区・包括共催で、「介護予防ケアマネジメント研修」を実施し、強みをとらえるアセスメント方法やリハビリの視点について、学習する場としました。
- 地域のインフォーマル団体のボランティアとケアマネジャーの交流会を実施し、地域のサロンや生活支援ボランティアの活動を知ってもらうとともに、課題共有を行いました。インフォーマルサービスを知ることで、介護予防（居宅）計画においての位置づけることを意識してもらえるよう支援しました。
- 新任ケアマネジャー研修およびケアマネスキルアップ講座「クイズで学ぼう！瀬谷区社協」において、区社協事業について知ってもらう機会を持ち、ボランティアセンター・あんしんセンター・生活支援コーディネーターの役割を意識してもらい、有効活用できるように支援しました。
- 介護予防計画書の作成を委託している事業所と常時、電話や面談を通して、連携を図りました。更新プランの提出時に、対象者の個性や興味あることなどが反映しているかを確認し、本人の目標につながっているかを確認し、共有するようにしました。
- 新たに、介護予防支援計画書を作成するケアマネジャーに対し、事前に介護予防計画書のモデルプランを提示し、記載方法や目標思考型プランのイメージを作れるようにしました。

(6) 一般介護予防事業

一般介護予防事業

【元気づくりステーション】

- 「あったかハート元気会」では、年度始めに定例会にて介護保険制度についての話しをしました。  
また毎月の運動だけでなく、ポッチャやカローリング、体力測定会のイベントを盛り込みながら参加者同士の交流も行いました。

【フォローアップ講座】

- 「ユーカーリの会」では、年2回体力測定会を行うことで、経年変化を振り返る機会となりました。
- 「男めし」は、1月に実施しました。

【出前講座】

- 八千代会  
保健師からは、介護予防についての講話、介護予防体操脳トレを行いました。社会福祉士からは消費者被害などの話しを、パンフレットを使用しイメージしやすいよう話しています。
- 相沢第七相和会  
クリスマス会に参加し、介護予防に関する脳トレ・事業の広報を行いました。
- 向陽台自治会館  
自治会との共催にて、体力測定会を行いました。地域のボランティア運動指導員による筋力アップ体操を行う事で、今後の人材育成の目的にもなり、介護予防啓発の機会となりました。

【こつこつ元コツ】

- 第四地区（東野中コミソク）と相沢地区（諏訪社）にて、3回連続講座の口腔・栄養・運動を実施しました。  
次年度も地域の中で、介護予防を提供していきます。

【歌って笑ってショ～タイム】

○カラオケや歌が盛んな地域をターゲットに、歌を取り入れた介護予防講座を3回連続で行いました。

【ボランティア育成】

○ぼらんていあカフェ

担当エリア内で活動するボランティアを対象とした連続講座を開催しました。

予防救急と応急処置をテーマとした回では、相沢地区の中心的な活動拠点である諏訪社で開催することで、普段参加されない相沢地区のボランティアの参加につながりました。

また、介護予防のスキル習得をテーマとした回では、瀬谷第四・相沢地区両地区の参加が多くみられ自己研鑽と介護予防のプログラムに情報交換する機会となりました。

○地域の人材育成のため、体力測定会において、瀬谷スポーツセンターの講師を依頼しました。

《自主事業》

【尿モレ講座】

昨年に続き、1回目にユニ・チャーム、2回目に理学療法士・作業療法士による骨盤底筋体操を行いました。

【体力測定会】

○東野園では毎週虹のかけはしが体操を行っています。測定は春、秋の2回実施し2回目では外部からの参加者の希望にて施設内の見学もあり、施設としても地域に知っていただく機会にもなりました。

○ユーカリの会

月2回体操教室を行っている所での、自身の身体的評価を知るきっかけ作りとなりました。各実施種目における強化体操も実施しました。

○相沢小学校

相沢地区で実施。日頃の歩行に応用できる筋力強化や、歩くコツを取り入れた内容で実施しました。

## 5 その他

その他

○居宅部門を含めた全部門間合同で、年間事業の振り返りを10月に行い、後半の事業についての連携の方法や次年度の改善点などを話し合いました。また、1月には31年度事業の方針や新規事業の在り方などを検討しました

○災害時の対策として、福祉避難所運営のための職員体制や災害時事業継続計画(BCP)について全職員で確認し合いました。

○区社協との協働で、せやまる・ふれあい館とその周辺3施設(三ツ境養護学校、二つ橋高等特別支援学校、多機能型拠点)とが集まり、大規模災害発災後の具体的な対応方法について、情報共有する機会を設けました。

そのため、事前にアンケートを実施し、その結果を基に、互いの連携方法を確認できたとともに、災害時やその他必要に応じてこのネットワーク会議を開催することができるようになりました。

## 7 施設の適正な管理について

### (1) 施設の維持管理について

- 指定管理者として公の施設を公平・公正に管理しました。
- 地域の方々が安心して利用できる施設を目指し、日常清掃や定期清掃はもとより、日々の点検業務など、衛生的で清潔な施設の維持管理に努めました。
  - 電気・消防設備・エレベーターなどの維持管理については、専門業者による業務委託を行い適切な管理を行うとともに、せやまる・ふれあい館内の各施設と費用按分により経費を負担しました。
  - 施設の補修や修理について、瀬谷区役所との事前協議により実施するとともに館内の共有スペースに関しては、瀬谷区役所および「せやまる・ふれあい館管理委員会」と十分に協議し連携を図りながら、適切に対応しました。
  - 施設利用者の方々への利便性を考え、各部屋の空き状況を施設の掲示板で周知しました。

### (2) 効率的な運営への取組について

- コピーや印刷は裏紙で済むものは積極的に裏紙を利用し、コピー用紙の購入はリサイクル用紙を購入しました。
- 空調温度の基本設定を夏は28℃、冬は20℃としましたが、利用者や来館者の年齢・体調等に合わせて、臨機応変に温度設定を調整しました。
- 利用の無い部屋は消灯を徹底し、天候により太陽光で照度が十分に得られる場合は、廊下等の照明を一部または全部消灯を進めました。
- 館内の各トイレは自動照明や自動水栓が設置されており、全館を挙げて節電・節水に取り組みました。
- パソコンは節電設定して、離席時の無駄な電力消費を予防しました。  
せやまる・ふれあい館に雨水タンクを設置して、植栽の水やりなどに雨水を使用することで節水に取り組みました。
- 業務委託における指名競争入札において業者指名にあたり、中小企業を優先して指名しました。
- 運営法人が市内で複数の指定管理施設を受託している利点を活かし、引き続き、建物・設備保守管理業務契約等の一括入札が可能な契約を集約し、効率的な運営費の執行に努めました。また、備品・消耗品についても一括購入するなどし、経費の節減に努めています。
- 施設利用団体交流会（2回）により、利用者の意見・要望を伺うと共に、各団体の情報交換の機会を持ち、横の繋がりのきっかけ作りをしました。

### (3) 苦情受付体制について

- 利用者個人の尊厳を尊重し、利用者の権利を擁護する仕組みとして苦情解決を位置づけ、サービスや事業の質の向上につなげました。
- 苦情受付担当者と苦情実務責任者を情報掲示板や貸館の室内に掲示し、利用者に対して苦情受付の体制を周知しました。
- 法人の持つ「苦情相談対応マニュアル」に沿って苦情受付の体制を整えました。  
受付担当者（主任）→実務責任者（所長）→法人所管部長→苦情解決推進チーム→総括責任者という流れで苦情の解決にあたる体制を取りました。
- 各部門でアンケート調査を行い、利用者の方々から意見や要望をお聞きする機会をつくり、頂いたご意見を基に、改善に繋げるよう館内掲示も行いました。
- 窓口側面のコーナーに「ご意見箱」を設置して、日頃からケアプラザやせやまる・ふれあい館に関する意見や要望が届く仕組みを整えています。

#### (4) 緊急時（防犯・防災・その他）の体制及び対応について

##### 【防 犯】

防犯について、日中は各部屋の点検時に職員が見回り、閉館時も最終見守りをし、閉館後は、機械警備システムにより夜間の異常発見に備えています。

○職員が貸館利用後の点検等で館内を見回る際、不審者の侵入がないことも併せて確認しました。

○せやまる・ふれあい館各団体で共有の「不審者対応マニュアル」を作成し、全職員に配布し周知しており、対応を全体会議で再度確認しています。

##### 【防 災】

防災について、職員緊急連絡網の作成と自衛消防組織の設置により、火災や災害発生時に備えています。また、防犯や防災に関して緊急時対応のため、以下の事に取り組みました。

○防災・消火・避難訓練等を2回実施（1回はせやまる・ふれあい館合同の停電時における福祉避難所を想定した訓練・2回目は平常体制での避難訓練中心）

○日頃から地域の行事や防災訓練に積極的に車いす介助等を通し、参加し職員と地域の方々と顔の見える関係をつくることで、災害時など非常時に相互に協力し合える関係性を築き有事に備えました。

○職員連絡網や法人内の管理職連絡網・区関係の緊急時連絡網により、有事の際速やかに情報伝達が職員全体に行き渡るようにしています。

○災害時の福祉避難所として、その役割を認識し、防災備蓄物資の適正な保管管理を行うとともに、避難所運営に必要な人員の確保および役割が果たせるよう、参集訓練などを実施し体制づくりを進めました。

○発災後、緊急対応から復旧まで、円滑に行うため、BCP（事業継続計画）を整備し、見直しも含め職員内で内容を共有し、対応方法を検討しました。

#### (5) 事故防止への取組について

法人が運営する他の施設の事故報告を事例に当施設でのリスクを確認することで再発防止に向けた検討・対応を行い事故防止に役立てました。

○事故や事件・事務ミス等の発生防止のため、毎月の定例職員会議で、法人内で発生した事故事例や当ケアプラザ内でのヒヤリハット・事務ミスについて振り返り、業務改善等につなげました。

○事故対応マニュアル（ヒヤリハット含む）をはじめとする、各種マニュアルを再度全職員に確認し定着させました。

○毎日の朝礼・夕礼での申し送りを通し、ヒヤリハット発生の情報収集を行い、報告の案件があれば、その場で原因や対応策などを検討しました。

#### (6) 個人情報保護の体制及び取組について

○法人内で実施する個人情報保護研修に、毎年、管理職または職員が出席し、受講後は、職員会議において伝達研修を実施し、職員に対して個人情報の取り扱いや人権尊重に係る意識の向上に努めました。

○個人情報取扱いの管理責任者を所長とし、館内に掲示し周知しました。

○個人情報が含まれるケースファイル・データ保存の媒体等は施錠管理を徹底し必要時以外の外部への資料の持ち出しや机上放置を防止しています。

○パーソナルコンピューターは盗難防止のため、ワイヤーと鍵で固定しています。

○契約書・フェイスシート・介護保険申請書等の書類は、外部への持ち出しが必要なため、出かける前に「持出簿」に情報内容を記入し、事務所に戻った際、持ち帰った個人情報を他の職員が確認し、「持出簿」に記録しています。

○担当者の不在時の事後連絡や外部からの相談・問い合わせ等に使用する連絡ノート（各部門別）については、夜間は、施錠のできる保管庫で管理しています。

#### (7) 情報公開への取組について

法人の「保有する情報の公開に関する規程・規則」に基づき、情報公開への対応を行っています。また、法人本部や法人運営のケアプラザ等施設の運営状況や事業情報については、ホームページや広報紙などの媒体を用いて情報を発信しました。

- 情報公開に際しては個人の不利益にならないこと、責任者の判断を得ること等を徹底しました。
- 個人のプライバシー情報や法令等の規制で公にすることが出来ない情報など、開示できないものを明確にしています。
- 閲覧用の予算書・事業計画書、決算書・事業報告書を「ご意見箱」記入台に設置し、個人情報取扱業務概要説明書を受付窓口に設置しています。
- 受付窓口前に、情報コーナーを設置して地域の情報や事業チラシなどの広報紙やポスターなどの掲示をし、常に最新の情報が提供されるよう更新しています。
- ケアプラザの広報紙や開催事業のチラシを、各連合自治会町内会の定例会や地区社協会長会議等で説明し、自治会町内会の協力により、掲示板への掲示と地域回覧を行いました。

#### (8) 人権啓発への取組について

- 重症心身障害児余暇支援事業（みーとすまいる）を2回実施し、地域への周知を行うことで障害者理解の促進を図りました。
- 認知症高齢者に関する講座や講習会を小学校他幅広く実施し、地域に認知症理解の輪を広めています。
- 法人の実施する人権啓発研修を基に所長・職員が説明者となって、職場内研修として、児童虐待や障がい者の状況についての全員研修を行い、内部啓発に努めました。
- 周辺の三ツ境養護学校を始めとして、区内の地域作業所などの、野菜やパン販売等を毎週ロビーで販売促進し、来館者の方々に障がい者理解の輪を広げました。
- エリア内の2地区の地域福祉保健計画の柱として「障がい者の理解促進」を掲げていることもあり、地域の住民を対象にした理解促進講座等の事業の支援を進めました。

#### (9) 環境等への配慮及び取組について

- コピーや印刷は裏紙で済むものは積極的に裏紙を利用し、コピー用紙購入についてはリサイクル用紙を購入しました。
- 空調温度を夏は28℃、冬は20℃の基本的な設定にしています。
- 利用の無い部屋の消灯を徹底し、廊下や事務所内の電気は天候により不要箇所は消灯しています。
- 館内の各トイレは自動照明や自動水栓が設置されており、全館を挙げて節電・節水に取り組みました。
- パソコンは節電設定して、離席時の無駄な電力消費を予防しています。
- せやまる・ふれあい館に雨水タンクを設置して、植栽の水やりなどに雨水を使用しています。

## 介護保険事業

### ● 指定介護予防支援事業・第1号介護予防支援事業

#### 《職員体制》

- 管理者 主任ケアマネジャー 1名（常勤兼務）
- 保健師等 1名（常勤兼務）
- 社会福祉士 1名（常勤兼務）
- 予防支援プランナー 1名（非常勤） ※3月より

#### 《目標に対する成果等》

要支援1,2と認定された地域の高齢者に対し、目標思考型のケアプランを作成しました。また、本人の意欲を高め、介護保険サービスのみならず、インフォーマルサービスなどの情報提供を行い、より本人の意欲を反映できるようにし、生活の質の向上をめざし進めました。

委託事業所に向けて、総合事業の理解・啓発を図り、滞りのないサービス利用が行えるよう、連絡・調整を行いました。

#### 《実費負担（徴収する場合は項目ごとに記載）》

無し

#### 《その他（特徴的な取組、PR等）》

- (1) 地域のケアマネや地域のインフォーマルサービスに関わる方との連携を図り、双方の情報共有を密にし、インフォーマルサービス等を盛り込んだ計画が出来るよう支援を進めました。
- (2) 地域の介護予防支援事業者を対象とした介護予防に関する勉強会や研修を企画し、目標を掲げた予防ケアプランを作成するためスキルアップを図りました。

#### 《利用者実績》※ 単位省略

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
160	166	164	168	166	171
10月	11月	12月	1月	2月	3月
168	171	174	166	167	172



● 居宅介護支援事業

《職員体制》

- 管理者 1名（常勤兼務）
- 介護支援専門員 5名（常勤兼務1名、非常勤専従4名）

《目標に対する成果等》

介護保険法の目的に沿って利用者が可能な限り住み慣れた地域で自立した生活が送れるようケアプランを作成しまた、利用者とその家族の精神的、肉体的な負担が軽減できるように支援を行いました。

《実費負担（徴収する場合は項目ごとに記載）》

なし

《その他（特徴的な取組、PR等）》

- (1) 利用者の個別性を尊重し個別のニーズに沿ったサービス計画を作成しボランティア活動などの地域の活動を含めた適切な情報を提供できるよう努めた。
- (2) 個人情報に配慮しながら、複合施設の特徴を生かし必要な情報を利用者に提供し地域支援が問題解決につながるよう地域ケア会議への出席を積極的に行った。
- (3) 当事業所は地域包括支援センターと併設されているため、地域包括ケアシステムの観点から積極的に協力し実現に向けて協働している。

《利用者実績》

※ 単位省略

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
131	132	135	132	136	135
10月	11月	12月	1月	2月	3月
138	138	143	140	138	140

平成30年度「ニッ楯第二地域ケアプラザ」  
収支予算書及び報告書(一般会計)＜地域活動＞

収入の部

(税込、単位：円)

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
指定管理料	19,753,000		19,753,000	19,753,000	0	横浜市より
利用料金収入			0		0	この列は入力しない
指定管理料充当 事業	0		0	0	0	
自主事業収入			0		0	この列は入力しない
雑入	0		0	28	△ 28	
印刷代	0		0	0	0	
自動販売機手数料			0	0	0	この列は入力しない
駐車場利用料金収入			0	0	0	この列は入力しない
その他(指定管理料充当)	0		0	28	△ 28	
その他(施設使用料相当額 法人負担分)			0	0	0	
その他(提案時控除 法人負担分)			0	0	0	
収入合計	19,753,000	0	19,753,000	19,753,028	△ 28	

支出の部

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
人件費	10,716,000		10,716,000	9,878,750	837,250	
本俸	9,185,000		9,185,000	7,869,093	1,315,907	
社会保険料			0	0	0	
手当計	136,000		136,000	270,484	△ 134,484	
健康診断費			0	0	0	
勤労者福祉共済掛金	279,000		279,000	6,750	272,250	ママふりしど
退職給付引当金繰入額			0	0	0	
その他	1,116,000		1,116,000	1,732,423	△ 616,423	
事務費	1,195,000		1,195,000	2,672,122	△ 1,477,122	
旅費			0	13,863	△ 13,863	
消耗品費	588,000		588,000	560,502	27,498	
会議随費	10,000		10,000	0	10,000	
印刷製本費	80,000		80,000	89,683	△ 9,683	
通信費	450,000		450,000	433,721	16,279	
使用料及び賃借料	67,000		67,000	0	67,000	
横浜市への支払分			0	0	0	
その他			0	0	0	
備品購入費			0	278,505	△ 278,505	
図書購入費			0	0	0	
施設賠償責任保険			0	16,969	△ 16,969	
職員等研修費			0	8,374	△ 8,374	
振込手数料			0	0	0	
リース料			0	63,478	△ 63,478	
手数料			0	3,672	△ 3,672	
地域協力費			0	37,300	△ 37,300	
その他			0	1,166,055	△ 1,166,055	
事業費	568,000		568,000	71,592	496,408	
運営協議会経費	42,000		42,000	6,900	35,100	予算・指定額
指定管理料充当 事業	526,000		526,000	64,692	461,308	
管理費	6,417,000		6,417,000	3,703,819	2,713,181	
建築物・建築設備点検			0	0	0	予算・指定額
光熱水費	1,241,000		1,241,000	1,263,505	△ 22,505	
電気料金			0	0	0	
ガス料金			0	0	0	この列は入力しない
水道料金			0	0	0	
清掃費	2,114,000		2,114,000	1,137,031	976,969	
修繕費	474,000		474,000	119,756	354,244	予算・指定額
機械整備費	1,000,000		1,000,000	161,669	838,331	
設備保全費	1,588,000		1,588,000	1,021,858	566,142	
空調衛生設備保守			0	0	0	
消防設備保守			0	0	0	
電気設備保守			0	0	0	
害虫駆除清掃保守			0	0	0	
駐車場設備保全費			0	0	0	
その他保全費			0	0	0	
共益費			0	0	0	
その他			0	0	0	
公租公課	857,000	0	857,000	0	857,000	
事業所税			0	0	0	この列は入力しない
消費税	857,000		857,000	0	857,000	
印紙税			0	0	0	この列は入力しない
その他( )			0	0	0	この列は入力しない
事務経費 (計算根拠を説明欄に記載)	0	0	0	0	0	この列は入力しない
本部分			0	0	0	この列は入力しない
当該施設分			0	0	0	この列は入力しない
リース対応費			0	0	0	この列は入力しない
支出合計	19,753,000	0	19,753,000	16,326,283	3,426,717	
差引	0	0	0	3,426,745	△ 3,426,745	

自主事業費収入	526,000		526,000	0	526,000	
自主事業費支出	526,000		526,000	0	526,000	
自主事業収支	0	0	0	0	0	→自主事業(指定管理料充当の自主事業)費

管理許可・目的外使用許可収入	0		0	0	0	駐車場利用料金・自動販売機手数料収入等法人収入
管理許可・目的外使用許可支出	0		0	0	0	使用料(横浜市への支払等)
管理許可・目的外使用許可収支	0		0	0	0	

平成30年度「ニッ橋第二地域ケアプラザ」

収支予算書及び報告書(特別会計)

収入の部

(税込、単位：円)

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
指定管理料(包括)	23,692,000		23,692,000	23,692,000	0	横浜市より
指定管理料(介護予防)	151,000		151,000	151,000	0	横浜市より
指定管理料(生活支援)	5,789,000		5,789,000	5,789,000	0	横浜市より
利用料金収入			0		0	
指定管理料充当事業(包括)	0		0			
指定管理料充当事業(介護予防)	0		0		0	
指定管理料充当事業(生活支援)	0		0	29,000	△ 29,000	
自主事業収入			0		0	
雑入	0	0	0		△ 1,455	
印刷代	0		0		0	
自動販売機手数料	0		0	0	0	
駐車場利用料金収入	0		0	0	0	
その他(指定管理充当分)	0		0	1,455	△ 1,455	
その他(提案時控除 法人負担分)			0	0	0	
<b>収入合計</b>	<b>29,632,000</b>	<b>0</b>	<b>29,632,000</b>	<b>29,661,000</b>	<b>△ 30,455</b>	

支出の部

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
人件費	25,343,000	0	25,343,000	26,324,869	△ 981,869	
本俸	19,607,000		19,607,000	14,863,401	4,743,599	
社会保険料			0		0	
手当計	3,171,000		3,171,000	6,758,878	△ 3,587,878	
健康診断費			0		0	
勤労者福祉共済掛金	46,000		46,000	32,250	13,750	ハマふれんど
退職給付引当金繰入額			0		0	
その他	2,519,000		2,519,000	4,670,340	△ 2,151,340	
事務費	1,632,000	0	1,632,000	479,485	1,152,515	
旅費	200,000		200,000	20,138	179,862	
消耗品費	176,000		176,000	5,836	170,164	
会議随費	20,000		20,000		20,000	
印刷製本費	200,000		200,000	9,770	190,230	
通信費	250,000		250,000	204,093	45,907	
使用料及び賃借料	0	0	0	0	0	
横浜市への支払分	0				0	
その他	0			0	0	
備品購入費	250,000		250,000	20,979	229,021	
図書購入費			0		0	
施設賠償責任保険	40,000		40,000	4,511	35,489	
職員等研修費	30,000		30,000	15,996	14,004	
振込手数料			0		0	
リース料			0	176,282	△ 176,282	
手数料			0	21,880	△ 21,880	
地域協力費	30,000		30,000		30,000	
その他	436,000		436,000		436,000	
事業費	1,512,000	0	1,512,000	1,011,685	500,315	
協力医	630,000		630,000	546,000	84,000	予算:指定額
指定管理料充当自主事業(包括)	422,000		422,000	74,911	347,089	
指定管理料充当事業(介護予防)	151,000		151,000	151,000	0	
指定管理料充当自主事業(生活支援)	309,000		309,000	239,774	69,226	予算:指定額
管理費	1,145,000	0	1,145,000	984,548	160,452	
建築物・建築設備点検	0		0		0	予算:指定額
光熱水費	300,000	0	300,000	335,868	△ 35,868	
電気料金			0		0	
ガス料金			0		0	
水道料金			0		0	
清掃費	400,000		400,000	302,247	97,753	
修繕費	126,000		126,000	31,832	94,168	予算:指定額
機械警備費	319,000		319,000	42,975	276,025	
設備保全費	0	0	0	271,626	△ 271,626	
空調衛生設備保守			0		0	
消防設備保守			0		0	
電気設備保守			0		0	
害虫駆除清掃保守			0		0	
駐車場設備保全費			0		0	
その他保全費			0		0	
共益費			0		0	
その他			0		0	
公租公課	0	0	0	0	0	
事業所税			0		0	
消費税	0		0		0	
印紙税			0		0	
その他( )			0		0	
事務経費(計算根拠を説明欄に記)	0	0	0	0	0	
本部分			0		0	
当該施設分			0		0	
二一ス対応費			0		0	
<b>支出合計</b>	<b>29,632,000</b>	<b>0</b>	<b>29,632,000</b>	<b>28,800,587</b>	<b>831,413</b>	
差引	0	0	0	860,413	△ 861,868	

自主事業費収入	0					
自主事業費支出	0					
自主事業収支	0			0		⇒自主事業(指定管理料充当の自主事業)費
管理許可・目的外使用許可収入				0		駐車場利用料金・自動販売機手数料収入等法人
管理許可・目的外使用許可支出				0		使用料(横浜市への支払等)、駐車場設備保全費
管理許可・目的外使用許可収支				0		

平成 30年度 地域ケアプラザ収支予算書及び報告書<介護保険事業分>

施設名: ニツ橋第二地域ケアプラザ

平成30年4月1日～平成31年3月31日  
(単位:千円)

	科目	介護予防支援			居宅介護支援			通所介護			予防通所介護・第1号通所介護		
		予算	決算	差引	予算	決算	差引	予算	決算	差引	予算	決算	差引
収入	介護保険収入	4727	4486	241	21974	19471	2503			0			0
	その他	5000	5381	4727	0	1500	-1500	0	0	0	0	0	0
	介護予防ケアマネジメント費	5000	5381	-381	0	1500	-1500			0			0
	事業・負担金収入			0	0		0			0			0
				0			0			0			0
				0			0			0			0
				0			0			0			0
	その他			0			0			0			0
<b>収入合計(A)</b>		9727	9867	-140	21974	20971	1003	0	0	0	0	0	0
支出	人件費	0	151	-151	16620		16620			0			0
	事務費	0	0	0	80	49	31			0			0
	事業費	0	160	-160	449	445	4			0			0
	管理費			0			0			0			0
	その他	7800	7724	76	4825	0	4825	0	0	0	0	0	0
	利用者負担軽減額			0	0		0			0			0
	消費税			0	0		0			0			0
	介護予防プラン委託料	7800	7724	76	0		0			0			0
				0			0			0			0
	その他			0			0			0			0
<b>支出合計(B)</b>		7800	8035	-235	21974	494	21480	0	0	0	0	0	0
<b>収支 (A)-(B)</b>		<b>1927</b>	<b>1832</b>	<b>95</b>	<b>0</b>	<b>20477</b>	<b>-20477</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>

※ 介護予防プランを他事業者へ委託する場合の取扱は、介護報酬を一旦全額収入に計上した後、他事業者へ委託料として支払う分を支出に計上してください。

※ 上記以外の事業(認知症対応型通所介護等の事業)を実施している場合は、事業ごとに列を増やして同じように記載をしてください。

# 平成30年度 自主事業収支報告書

## 横浜市ニツ橋第二地域ケアプラザ

事業名	①募集対象者	自主事業決算額							
	②募集人数	総経費	収入			支出			
	③一人当たり参加費		指定管理料	参加費	その他	講師謝金	材料費	その他	
健康講座	地域住民	26,680	地活	14,180			12,500		1,680
	15名		包括	12,500			12,500		
	0		介護						
			生活						
介護者の集い ～カロリーリング～	地域住民(介護者)	1,000	地活						
	15名		包括	1,000					1,000
	0		介護						
			生活						
こっこつ元コツ ～東野中コスモ～	地域住民(高齢者)	47,776	地活						
	25名		包括	2,592					2,592
	0		介護	45,184			43,000		2,184
			生活						
こっこつ元コツ ～諏訪社～	地域住民(高齢者)	45,480	地活						
	25名		包括	3,096					3,096
	0		介護	42,384			34,000		8,384
			生活						
相沢小学校体力測定会	地域住民(高齢者)	1,148	地活						
	40名		包括						
	0		介護	1,148					1,148
			生活						
ボランティアカフェ	地域住民	27,957	地活						
	25名		包括	3,957					3,957
	0		介護						
			生活	24,000			22,000		2,000
歌って笑ってショータイム	地域住民(高齢者)	32,294	地活						
	30名		包括	1,050					1,050
	0		介護	18,724			10,000		8,724
			生活	12,520			10,000		2,520
東野園体力測定会	地域住民(高齢者)	26,680	地活	10,840			10,000		840
	30名		包括	840					840
	0		介護	15,000			15,000		
			生活						
尿漏れ予防講座	地域住民(高齢者)	14,736	地活						
	30名		包括	1,736					1,736
	0		介護	13,000			13,000		
			生活						
介護者の集い ～笑いヨガ～	地域住民(介護者)	6,000	地活						
	15名		包括	6,000			6,000		
	0		介護						
			生活						
介護者の集い ～隠れ脱水予防レシピ～	地域住民(介護者)	17,715	地活						
	15名		包括	17,715			16,000		1,715
	0		介護						
			生活						
介護者の集い ～ふれあいカフェタイム～	地域住民(介護者)	1,658	地活						
	15名		包括	1,658					1,658
	0		介護						
			生活						
音の駅	地域住民	12,000	地活	12,000			10,000		2,000
	無し		包括						
	0		介護						
			生活						

## 平成30年度 自主事業収支報告書

せやまるふれあい祭り	地域住民	11,956	地活	11,956			8,000		3,956
	無し		包括						
	0		介護生活						
みーとすまいる	地域住民	10,560	地活	10,560			10,000		560
	10組(20名)		包括						
	0		介護生活						
ボランティアの集い	地域住民	3,756	地活	3,756					3,756
	無し		包括						
	0		介護生活						
離乳食教室	地域住民(子育て)	1,400	地活	1,400					1,400
	20組		包括						
			介護生活						
向陽台健康教室	地域住民(高齢者)	3,000	地活				3,000		
	無し		包括	3,000					
			介護生活						
ユーカーの会体力測定会	地域住民(高齢者)	19,680	地活				3,000		1,120
	40名		包括	4,120					
	0		介護生活	15,560					
民生委員とケアマネジャー交流会	ケアマネジャー・民生委員	3,842	地活						3,842
	50名程度		包括	3,842					
	0		介護生活						
ケアマネジャースキルアップ講座「インフォーマルサービスとの連携」	ケアマネジャー・ボランティア	1,921	地活						1,921
	40名程度		包括	1,921					
	0		介護生活						
第1回個別レベル地域ケア会議	地域住民・ケアマネジャーなど	1,921	地活						1,921
	なし		包括	1,921					
	0		介護生活						
第1回包括レベル地域ケア会議	地域住民・ケアマネジャーなど	3,842	地活						3,842
	なし		包括	3,842					
	0		介護生活						
第2回包括レベル地域ケア会議	地域住民・ケアマネジャーなど	2,200	地活						2,200
	なし		包括	2,200					
	0		介護生活						
ほっこりカフェ	地域住民	46,816	地活						
	無し		包括						
			介護生活	17,816					
男めしフォローアップ講座	地域住民	16,000	地活						
	15名		包括						
	0		介護生活	16,000					
地域の見守りツールを語ろう	地域福祉関係者	1,921	地活						1,921
	なし		包括	1,921					
	0		介護生活						

事業ごとに別紙に記載してください。

# 平成30年度 自主事業報告書

## 横浜市ニッ橋第二地域ケアプラザ

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
新任・就労予定ケアマネジャー支援	<p>瀬谷区で新しくケアマネジャー業務に就く、新人ケアマネジャーが業務を円滑に進めていけることを目的として開催した。</p> <p>(第1回) ①介護保険制度について ②横浜市一般行政サービスについて ③瀬谷区社会福祉協議会の事業について ④地域包括支援センターの役割</p> <p>(第2回) 新任ケアマネジャーの困り事・心配事</p>	6、2月(2回)

事業名	目的・内容	実施時期・回数
ケアマネジャースキルアップ講座	<p>各機関やインフォーマルサービスとの連携構築や事例を介してのスキル向上を目的として、包括エリア内で活動するケアマネジャーを対象に講座を開催した。</p> <p>①生活保護制度と生活困窮者自立支援制度について ②インシデントプロセス方式による事例研究(第1回) ③民間配食サービス試食会 ④ニッ橋第二CP福祉機器展 ⑤インシデントプロセス方式による事例研究(第2回) ⑥インフォーマルサービスとの連携について ⑦クイズで学ぼう!瀬谷区社協</p>	5、6、7、9、12、2、3(7回)

事業名	目的・内容	実施時期・回数
病院医療相談員とケアマネジャーの情報交換会	<p>病院MSWとケアマネジャーが、お互いの役割を理解し、より中身のある連携が図れるよう支援と顔の見える関係づくりを行った。</p>	7月(1回)

事業名	目的・内容	実施時期・回数
「認知症ケアを考える～自分らしく生きるとは～」の地域住民向け映画鑑賞会及びパネルディスカッション	<p>地域住民に対して、映画を通して、認知症や介護についての理解・啓発を図っていく。また、区内で働く福祉・医療関係者がどのように認知症者と向き合っているかをパネルディスカッションを通して、検討し、地域とのネットワークづくりを構築を目的に開催した。</p>	8月(1回)

事業名	目的・内容	実施時期・回数
地域の見守りツールについて語ろう	<p>担当地区の連合会長・民児協会会長・地区社協会長を一同に介し、地域ケアプラザ職員・区職員・区社協職員を交え、地域での見守りに関する課題や取組を共有するとともに、今後、福祉保健関係者ととともに、どのように確立していくかを検討した。</p>	9月(1回)

# 平成30年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容	実施時期・回数
介護予防ケアマネジメント研修	ケアマネジャーを対象に、介護予防ケアマネジメントをする際、自立支援であったり、目標思考型のプラン作成が行えるような、ロールプレイを行い、アセスメント方法を学ぶ機会を作った。また、架空事例をもとに、グループワークにて対象者に対する具体的な目標の立て方を学んだ。	10月（1回）

事業名	目的・内容	実施時期・回数
通所介護職員とケアマネジャーの交流会	区内で働くケアマネジャーと通所介護職員との連携構築に向けた意見交換を行った。	12月（1回）

事業名	目的・内容	実施時期・回数
民生委員・ケアマネジャー交流会	包括に対する民生委員およびケアマネジャーの相談事例を紹介した。また、要支援者の架空事例を通して、地域のインフォーマルサービスの活用を意識したケアプラン作成をグループワークにて行った。	1月（1回）

事業名	目的・内容	実施時期・回数
医師会・歯科医師会・薬剤師会との交流会	ケアマネジャー・包括だけでなく、医療機関の関わりが必要と思われる事例を基に、パネルディスカッションを行った。パネルディスカッションを通して、お互いの役割と関われることを共有し、連携への意識を高めた。	2月（1回）

事業名	目的・内容	実施時期・回数
心も身体も元気 に こつこつ元 （東野中コミソ実 施）	<p>【目的】 65歳以上のエリア内住民に対し、介護予防の知識と実技について学ぶ機会の提供、住民自ら継続的に介護予防の活動について取り組めるよう、地域の活動グループ等につなげた。</p> <p>【内容】</p> <p>9/3 栄養：疲れやすい、低栄養について 調理実習：防災に備えて火の使わない調理 (管理栄養士)</p> <p>9/19 口腔：肺炎予防、効果的な歯の磨き方、口の体操 (歯科栄養士)</p> <p>10/1 運動：歩く筋肉をメインに、近隣をウォーキングする (運動指導員)</p>	9.10月（3回）



# 平成30年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容	実施時期・回数
心も身体も元気にこっこつ元コツ（諏訪社実施）	<p>【目的】 65歳以上のエリア内住民に対し、介護予防の知識と実技について学ぶ機会の提供、住民自ら継続的に介護予防の活動について取り組めるよう、地域の活動グループ等につなげた。</p> <p>【内容】 10/10 口腔：肺炎予防、効果的な歯の磨き方、口の体操（歯科衛生士） 10/16 栄養：糖化、酸化について（管理栄養士） 講話：認知症ミニ講座（ケアプラザ協力医） 10/29 運動：ペタンクゲームで体力作り（運動指導員）</p>	10月（3回）

事業名	目的・内容	実施時期・回数
体力測定会（東野園）	毎週木曜日に、体操ボランティアの虹のかけはしが1時間東野園入居者に対し体操・脳トレを実施しているが、その中で体力測定を実施した。 また、近隣自治会にも体力測定会の周知を行い、日頃の自身の体力測定するきっかけ作り、介護予防普及啓発の目的にて実施。	5, 11月（2回）

事業名	目的・内容	実施時期・回数
備えあれば憂いなし！尿もれ予防体操	昨年も好評の講座、尿もれについての身体の機能などについて知るきっかけ、また骨盤体操を日常生活に活かしたものを取り入れる事で、予防改善していくきっかけ作りを行った。	6.7月（2回）

事業名	目的・内容	実施時期・回数
体力測定会（相沢小学校）	日頃から運動を行っている方への現在身体能力を計測する事で、今後の運動方法等に意識し取り組みを行うことが出来る様、また日頃から運動の習慣が少ない方については、今後運動を始めるきっかけ作り。地域サロン紹介を行い参加者自身が介護予防に取り組みやすい環境も整えた。	9月

事業名	目的・内容	実施時期・回数
歌って笑ってショ〜タイム	カラオケや歌が地域活動で盛んな所をターゲットにし、歌を取り入れた介護予防で、継続的な社会参加をうながした。	11月（3回）

事業名	目的・内容	実施時期・回数
介護者のつどい「ふれあい」	<p>現在介護をされている方・介護経験のある方・介護に興味のある方に対し、心身のリフレッシュ、介護者同士の交流や介護に役立つ情報提供を行うことで、孤立することなく元気に介護が続けられるよう支援した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○5月…カローリングでの健康づくり</li> <li>○7月…薬剤師からのためになる薬の話</li> <li>○9月…笑いヨガ</li> <li>○11月…栄養講座</li> <li>○1月…おやつ作り</li> <li>○3月…高齢者疑似体験</li> </ul>	5.7.9.11.1.3月（6回）

# 平成30年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容	実施時期・回数
元気なうちから 老いじたく	「エンディングノート」「老後の金銭管理」「成年後見制度・あんしんセンター」について連続講座を開催することで自分や家族の老後について考え、これからの人生を自分らしくよりよく生きることが出来るよう支援した。 ○6月…瀬谷区版エンディングノートの書き方講座 ○7月…老後の金銭管理 ○10月…成年後見制度・あんしんセンターについて・瀬谷区版エンディングノートの書き方講座	6.7.10月（4回）

事業名	目的・内容	実施時期・回数
認知症ミニ講座	地域の医師が認知症について講演を行うことで、地域住民が認知症を身近な問題としてとらえ、正しく理解できることを目的とした。 ・認知症予防方法について ※介護予防事業「心も身体も元気に こつこつ元コツ講座」とタイアップして実施	10月（1回）

事業名	目的・内容	実施時期・回数
男めしフォロー アップ講座	当ケアプラザ事業OB会である男めしの技術のフォローアップを行うことにより会員のモチベーションの維持向上と充実した自主運営の継続を目的とした。また生活支援部門と共催することで継続的な社会参加を促す機会とした。  [内容] たんぱく質をテーマにした講義と調理実習。	1月（1回）

事業名	目的・内容	実施時期・回数
ほっこりカフェ	誰もが通える居場所づくりを目的に、認知症カフェの機能を持たせたコミュニティカフェを開催。また平成29年度に実施したコミュニティカフェ開設講座の参加者を担い手とし、平成31年度以降の自主運営を目指した。	1,2,3月（3回）

事業名	目的・内容	実施時期・回数
ほっこりカフェ フォローアップ 講座	運営の中心となるボランティアに対しコーヒーの淹れ方の技術や知識を習得・ふり返りを行うことによって、活動や自主化に向けたモチベーション向上を図った。	10月（1回）

事業名	目的・内容	実施時期・回数
ボランティアカ フェ	地域で活動しているサロン・配食ボランティア・自治会等を対象に以下の項目を目的とした連続講座を行った。 ・ボランティア活動への意欲向上 ・スキルアップ（今後の活動で活かせる体操や栄養の知識など） ・ボランティアを行うきっかけ作り ・ボランティア同士の交流をすることでのネットワーク構築を図る	10,11月（4回）

# 平成30年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容	実施時期・回数
向陽台健康教室	<p>向陽台自治会の年間行事として交流と健康をテーマにした「健康教室」が平成27年度より地域ケアプラザ共催で行われている。そのため30年度も自治会内の交流と介護予防、そして自治会との連携強化を目的に自治会と共催して開催。</p> <p>【内容】</p> <p>①体力測定（握力、長座体前屈、5m歩行、全身反応等） ②自宅で実践できる簡単体操 ③ケアプラザの紹介</p>	2月（1回）

事業名	目的・内容	実施時期・回数
障害余暇支援事業「みーとすまいる」	<p>三ツ境養護学校に通う重症心身障害児を対象に、余暇支援事業を実施した。この事業の目的は、「安心・安全な環境で子どもたちが学校外で社会とかがわる場」を提供し、また障害支援のボランティアの育成・支援も合わせて行う事業とした。なお、ボランティア育成については、講習会を実施することで、障害についての理解を深め、余暇支援事業への導入と位置付ける。また横浜市多機能型拠点こまちを会場とすることで、三ツ境養護学校や地域へのPRにつなげた。</p> <p>○7/10 ボランティア講習会：余暇支援とは・ボランティアに期待すること・当事者家族との対談・施設見学・区内障害事業の紹介など ○7/29 第1回みーとすまいる：親子・ボランティアがふれあえる簡単なストレッチ、スポーツを実施。 ○3/23 第2回みーとすまいる：音楽レクリエーション</p>	7月（2回） 3月（1回）

事業名	目的・内容	実施時期・回数
音の駅	<p>瀬谷区内ケアプラザの地域活動交流共催事業として実施。地域の身近な場所で誰もが気軽に足を運べる移動コンサートを通じて、地域の交流につなげることを目的とする。</p> <p>○7/7 横浜市多機能型拠点こまちにて開催</p>	7月（1回）

事業名	目的・内容	実施時期・回数
健康講座「結果にコミット！カラダづくりのコツ！！」	<p>日々の健康づくりへの意識を深めるきっかけとして、またケアプラザの事業について知っていただくことを目的とする。また参加者が運動の必要性を実感できるよう、事前と事後に効果測定も取り入れた。</p> <p>○10/6 運動をすることの必要性と運動プログラムの実践 ○10/20 ①健康なカラダづくりで大切なこと ②運動プログラムの実践 ○11/10 ①運動前後の食事で気をつけたいポイント ②運動プログラムの実践</p>	10月（2回） 11月（1回）

# 平成30年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容	実施時期・回数
登録団体利用者 懇談会	<p>ケアプラザ登録利用団体が利用しやすい貸館を運営していくために団体が貸館についての利用方法やルールの確認を行った。またケアプラザが団体からの要望や質問を受け、ケアプラザと利用団体とが相互にコミュニケーションを図れる機会をつくった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・貸館利用方法の説明</li> <li>・利用者アンケートの報告</li> <li>・ケアプラザ事業の概要説明</li> <li>・団体ごとの情報交換</li> </ul>	12月 (2回)

事業名	目的・内容	実施時期・回数
せやまる・ふれ あい祭り	<p>地域ケアプラザ全体事業として、館内施設と共催でせやまる・ふれあい祭りを実施した。当事業は「お子さまからシニアの人まで、どなたでも集える地域の憩いの場であり、新たな出会いや発見は、人と人とをつないでさらに地域の元気を育むこと」を目的とした。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ノルディックウォーキング体験コーナー</li> <li>・室内スポーツ体験コーナー (ボッチャ、ラダーゲッター)</li> <li>・影絵の発表</li> <li>・飲み物やお菓子の販売</li> <li>・模擬店 (カレー、フランクフルト、焼きそば)</li> </ul>	12月 (1回)

事業名	目的・内容	実施時期・回数
合同育児講座 「親子で ぎゅー！っとス キンシップ」	<p>ケアプラザ、保育園、地域子育て支援拠点による共催事業。関係機関との連携強化や地域の親子との交流の場、親子でふれあいを楽しむ場になることを目的とした。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育園の保育士による親子遊び</li> </ul>	1月 (1回)

事業名	目的・内容	実施時期・回数
ボランティアデ ビュー講座	<p>区内ケアプラザにおいて、ボランティア支援事業として実施した。これからボランティアを始める方に向けて、知っておきたいポイントを伝えるとともに、具体的な活動につなげられるように紹介・支援した。また併せて「よこはまシニアボランティアポイント」の新規登録を行った。</p> <p>○2/22 よこはまシニアボランティアポイント登録研修会 ○3/16 ボランティアを始めるにあたって、活動先の紹介や見学</p>	2月 (1回) 3月 (1回)

事業名	目的・内容	実施時期・回数
YNWフォローアッ プ	<p>ケアプラザ事業から自主化したノルディックウォーキンググループ「YNW」にむけて、個々のニーズや課題について振り返り、今後の活動の幅を広げることを目的として実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ノルディックウォーキングの基本動作の振り返り</li> <li>・コースを考えるポイント、楽しみ方</li> <li>・階段や坂の上り下り など</li> </ul>	2月 (1回)

# 平成30年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容	実施時期・回数
ボランティアのつどい	<p>区内で活動しているボランティアが、区民にむけてその活動のPRやボランティア同士の交流を目的に実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域で活動しているボランティアグループの活動発表、紹介</li> <li>・キャラバンメイト、ヘルスマイトの活動紹介</li> <li>・岩手県釜石市でのボランティア活動報告</li> <li>・中高生ボランティア活動報告</li> <li>・模擬店、作業所販売 など</li> </ul>	3月（1回）

事業名	目的・内容	実施時期・回数
管理栄養士による離乳食教室	<p>地域子育て支援拠点と薬局の管理栄養士との共催事業。離乳食に関する相談に応えるとともに、今後の子育て支援事業や多世代交流事業への展開に向けてニーズ把握を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○3/23 飲み込む練習の時期にあったペースト状の食事について、アレルギーについて</li> <li>○3/30 噛む練習の時期に合った形のある食事について、便秘や風邪への対処法</li> </ul>	3月（2回）